

Reader's VIEW

2015 Vol.1 特集「小中高連携で変わる英語教育」へのご意見

このコーナーでは、編集部寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト (<http://berd.benesse.jp/>) でご覧いただけます。

◎「英語教育が変わる」という意識は高まってきているものの、では実際にどうするかといった時に、学校単独で変えることの難しさを改めて感じました。教育委員会を中心とした動きや小中高連携の大切さが見えてきたので、これからの取り組みに生かしていきたいです。(広島県)

◎小学生のうちから外国語や外国文化に触れる機会を増やすことには賛成です。しかし、大人になっても英語が話せないという現状は、学校の英語教育よりも、その後社会に出て英語が必要ない状況に原因があるのではないのでしょうか。これからの社会がどんな姿になり、その中で英語を話す必然性はどの程度あるのかを考えた上で、現実にあった姿と筋道を描く必要があると考えます。(静岡県)

◎課題整理で特に印象的だったのは「英語を苦手と感じるようになった時期」のグラフです。中学1年生と高校1年生で苦手と感じる生徒が増えているのは、小中高がうまく接続できていないことの表れだと思います。この解決には、学校種の壁を取り払って、中学校の教員を小学校に派遣したり、高校の教員を中学校に派遣したりするなど、柔軟な人事交流が必要です。(新潟県)

◎課題整理の「『意味のあるコミュニケーション』を増やす」という部分が参考になりました。本校でもまず定型文を対話形式で学ぶことから取り組んでいますが、それだけではステップアップできないのが現状です。自分の思いを英語で伝えることにチャレンジする学習を取り入れる必要性を、強く感じさせられました。(和歌山県)

◎少子化・過疎化に悩む自治体が多い中、岡山県総社市の英語特区を起爆剤にし、若い世代の流失に歯止めをかけ、市外からの流入を進めるという方策は、よく考えられていると思いました。大学入試の改革と相まって、英語特区は時宜を得た取り組みだと言えます。(岡山県)

◎岡山県総社市立維新小学校の取り組みが参考になりました。「フォニックス」の手法は、今後、校内研修で理解を深めていきたいと思えます。また、イマージョン教育の成果と課題も、参考になりました。記事には、「英語学習で培った積極性が子どもに好影響を及ぼす」との記述がありました。まさに、そこに英語学習の可能性があるのではないかと感じました。(岩手県)

◎石川県七尾市での中高教員の交流を通じた研修はとても有効だと感じました。中学校教員と高校教員が中学校卒業時に生徒に身に付けてほしいレベルを共有できていることは、学習する場が変わっても生徒に学習のつまずきをつくらせない手助けになると思えます。(東京都)

◎英語教育を語る上で小中高連携は欠かせません。東京都品川区では、英語科として4-3-2制でカリキュラム編成をしています。小中高連携を実施している本校でも、一貫したカリキュラム編成までは出来なくても、互いのカリキュラムを見せ合い、連携を図っていきけるのではないかと思います。また、品川区の英語教育で重要な役割を担うJTEについては、発音面だけでなく、子どもたちの様子がよく分かり、担任との連携も十分に取れるので、子どもの意欲を高める存在になると思えます。(東京都)

◎「ベネッセのデータで見る 教育の過去・現在・未来」では、自治体が少ない予算で多くの要望に答えている現状がよく分かりました。目先のことにとらわれず、どんな人材を育てるために、どんな教育に力を注ぐべきかを明確にして取り組む必要があると感じました。(宮城県)

◎ICTにかかわる環境を整備することは極めて重要だと思いますが、それを使いこなす技術や知識、時間が教員には十分でないのが現状です。まずは、教員研修の機会を確保することが急務だと考えました。(北海道)

編集後記

今回の特集で、先生方からお話を伺う中で感じたことが2つあります。1つめは、教育委員会でも学校でも、先生方はとても忙しい中で、学力向上、ひいては教育全般に熱心に取り組んでおられるということ。2つめは児童生徒が生き生きと活動している様子が見られたことです。これは、先生方の熱心さが児童生徒にも良い影響を与えているのだと感じました。学力向上については、取り組み始めたばかりの学校が多く、結果はこれからですが、今後の成果が楽しみだと思いました。(岡本)

VIEW21 教育委員会版 2015 Vol.2 2015年9月15日発行/通巻第2号

発行人 山崎昌樹
編集人 春名啓紀
発行所 (株)ベネッセコーポレーション
ベネッセ教育総合研究所

印刷製本 凸版印刷(株)
編集協力 (有)ペンダコ
執筆協力 二宮良太、中丸満
撮影協力 荒川潤、ヤマグチイッキ

◎お問い合わせ先
フリーダイヤル 0120-350455
〒700-8686
岡山市北区南方3-7-17